

祝 南アルプス ユネスコエコパーク登録!



スウェーデンで開かれたユネスコの国際会議で6月11日に、富士見町を含む3県（長野県・山梨県・静岡県）10市町村にまたがる南アルプスが、ユネスコエコパークに登録されました。

現在、ユネスコエコパークに登録されているのは、世界で119カ国631地域で、日本では、屋久島（鹿児島県）、綾（宮崎県）などに続き、今年南アルプスと只見（福島県）が加わり、計7地域となりました。



○ユネスコエコパークとは？

人間と自然との共生を目指す取り組みです。

世界自然遺産は手つかずの自然を厳重に守るために仕組みですが、ユネスコエコパークは自然を厳重に保護する「核心地域」、自然をいかして環境教育やレジャーなどをを行う「緩衝地域」、人が生活を営んでいる「移行地域」の3エリアに分け、大切な自然を守りながら、その自然を守っていく地域社会が継続的に発展していくために自然を活用していくことが求められています。

この理念は、南アルプスがすでに登録されているジオパークと共通していますが、ジオパークは地形・地質や素晴らしい景色など大地の特徴を中心に考えた取り組みです。



▲キタダケソウ



▲澄んだ空気の入笠湿原

●南アルプスユネスコエコパークの特徴は?

南アルプスは『高い山、深い谷が育む生物と文化の多様性』が保全されています。3,000m級の山々が連なり、北岳にしか生育しないキタダケソウなど、固有種は1,000を超えており、天然記念物のライチョウが生息するなど、生物多様性に富んだ自然環境です。

富士見町でも、絶滅危惧種に位置づけられているアツモリソウおよびホテイアツモリが自生しています。



●ユネスコエコパーク登録のメリットは?

ユネスコエコパークは世界自然遺産と同じ、ユネスコが進めている国際的な事業です。南アルプスの自然の素晴らしさや地域の魅力を世界へ発信することで、国内外からの観光客の増加が期待できます。

さらに、この資源をいかして市内外の子どもたちが訪れる「自然学習のフィールド」として活用していくことができます。



▲天然記念物のライチョウ



▲入笠山林道のごみ拾い

●この豊かな自然を守っていくために

富士見町では富士見町アツモリソウ再生会議を通して、環境省版レッドリストの絶滅危惧種に位置づけられているアツモリソウおよびホテイアツモリの自生地保護と遺伝資源の保存に取り組んでいます。

また、入笠山にはその他にも貴重な植物が数多く生息しています。マイカーによる外来植物の繁殖を防ぐため2006年から入笠山マイカー規制を行なっており、自然環境を損なわないために毎年入笠山開山祭の前には入笠山に通ずる林道のごみ拾いを行っています。